日本産カミナリハムシ属（ハムシ科：ノミハムシ亜科）の分類学的再検討

生物生態・体系学講座　昆虫体系学分野
末長晴輝

背景と目的

カミナリハムシ属 *Altica* は、ほぼ全世界に分布し約 250 種が知られており、日本からは 13 種が記録されている。本属には農業害虫とされている種や生物農薬として利用されている種が含まれており、応用昆虫学上重要なグループである。しかし、本属に含まれる種の多くが類似しており同定が困難である。これまで同定には雄交尾器が主に用いられていたが、表面構造などの微細な構造の記載が不十分である。また、雌交尾器や大あごも種の区別に有効であることも示されているが、日本産種においてはこれらの形質は検討されていない。

本研究では、雌雄交尾器や口器を詳細に比較して分類学的再検討を行い、日本産カミナリハムシ属の種を容易に同定できるようにした。

材料と方法

日本およびその周辺国のカミナリハムシ属のタイプ標本を含む成虫標本 500 点以上を検し、雄交尾器や雌交尾器、口器を含む各形質の記載や描画を行なった。雄交尾器など表面構造の観察が必要な形質については、電子顕微鏡による撮影などを行なった。また、これらの記載をもとに検索表の再構築も行なった。

結果および結論

雄交尾器の電子顕微鏡による観察により複雑な表面構造の記載が可能となり、確実な同定が可能となった。雌個体は雌交尾器（産卵管、spiculum）の硬化部や大あごの形状などの組み合わせによって種レベルでの区別が可能となった。その結果、1 新種 2 日本新記録種を認め、15 種に再整理された。